

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500019		
法人名	有限会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	〒837-0916 福岡県大牟田市田隈766番地5 0944-41-8210		
自己評価作成日	平成27年03月24日	評価結果確定日	平成27年05月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294		
訪問調査日	平成27年04月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした生活環境の中で、安心、安全に生活を送っていただくように、入居者様に合った支援、生活時間を考え支援を行っています。また、ご家族から入居者様の情報やご家族の要望を聞き、入居者様が望まれる生活が送れるように努めています。月に1度は、行事を計画し、入居者様が気分転換を図れ、季節に合った行事を行い、季節感を感じていただけるように、季節事の行事を行うようにしています。行事の時には、ご家族の方へも参加を呼びかけ入居者様と過ごす時間をとっていただけるように取り組んでいます。職員に対しては、要望を聞き働きやすい環境を作り、職場で力が発揮できるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあい」は、JR銀水駅前の利便性の良い場所に位置し、3階建てビルの2階部分にあり、住宅型有料老人ホーム併設の1ユニット(9人)のグループホームである。利用者と職員は、地域の一員として、行事や活動に参加し、法人の秋祭りや餅つき大会に、地域の方や家族が参加して、地域交流の輪が広がっている。管理者と職員は、利用者が生まれ育った地域の中で、重度化しても暮らせるように、主治医や訪問看護と連携し、家族の協力を得て利用者の看取りを経験し、職員間の信頼とチーム介護に結びつき、「やり甲斐のある仕事、誇りの持てる介護」を目指している。また、家族会を、行事を兼ねて年4回開催し、サンマ祭りやバーベキュー大会には、地域の方も参加し、認知症についての理解を深めてもらい、地域の高齢者の悩みや問題等の相談を受ける等、地域福祉の拠点として活動が始まっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印		項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)		1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)		1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)		1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)		1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

u

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口にグループホームの理念を掲げています。仕事中でも目に入るように、ホーム内、日誌のファイルにも掲げています。また、ミーティング時には、理念を振り返るようにし、日頃の業務に繋がるよう努めています。	「生活の和」「地域の和」「幸せの笑」「尊厳の私」「みんなの話」の5つの「わ」を理念として掲げ、ホーム内の目につく場所に掲示している。理念の唱和等は特に行っていないが、「笑顔・真心・思いやり」という法人全体の理念と共に、職員間で共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と地域を交えての、そうめん流しや餅つきなどの行事を行うように毎年、計画をしています。また、近所のスーパーや事業所の前に、産直のお店ができ入居者様と一緒に買い物に行ったりしています。	校区のどんど焼きに、利用者4人と職員が参加し、併設事業所と合同で行うそうめん流しや餅つき、昨年から始めたバーベキューに、地域の方や家族の参加があり、交流を図っている。また、ボランティアや中学生の体験学習、高校の実習生の受け入れ等、地域に開かれたホームとして地域からの信頼も厚い。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の時には、地域の方へ参加の呼びかけを行い、実際に入居者様の様子を見ていただいたり、お話をさせていただくようにしています。運営推進会議では、状況報告を行い現在の入居者様の状況を知っていただくようにしています。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、状況報告の資料を作成し報告を行っています。意見をいただいた時には、他の職員にも伝えサービスの向上に努めています。	運営推進会議は、家族会会長、町内代表4名、民生委員、行政、包括、あんしん介護員の参加の下、2ヶ月毎に開催している。会議では、ホームから資料を基に報告を行い、活発に意見交換を行っている。参加者からの意見で、室内の段差を無くしスロープを設置する等、会議での意見を反映させた取り組みがある。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事へ参加していただき実情や取り組みを伝えるようにしています。月に1度、行政からのあんしん介護員の受け入れを行い、ホーム内で入居者様と一緒に過ごしていただいています。意見をいただいた時には、参考にさせていただいています。年に1回の行政を交えた意見交換会へ参加しています。	月に1度、あんしん相談員を受け入れている。また、毎年1回行われる行政職員との意見交換会に出席し、情報交換を行っている。運営推進会議に、行政と地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、行政との協力関係を築いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度、勉強会を行い、禁止となる行為について理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、身体拘束ゼロ宣言をホーム内に掲げています。	毎年法人内で勉強会を行い、身体拘束ゼロ宣言を掲げ、身体拘束が利用者に及ぼす影響について、職員一人ひとりが理解を深めている。具体的な禁止行為について、職員全員で話し合い、スピーチロックやドラッグロックも含めた、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度、勉強会を行い、虐待に対する理解を深め虐待防止に努めています。日頃の支援から注意を払い、防止に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修へ参加し、学ぶ機会を持つようにしています。現在、成年後見人を依頼されている方は、おられないないので希望される時には希望に沿えるように支援を行っていききたいと思います。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、外部研修を受講して理解を深めている。勉強会の中で報告を行い、職員間で共通理解に努め、制度についての資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容を説明し、申請窓口に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約内容の説明を行い、不安や疑問点があった時は返答するようにしています。説明を受け納得、理解をさせてから契約書へ署名、捺印をいただいています。改定の際は、家族会で改定案を説明し、後日、案内をだし理解、納得をしていただいてから、承諾書をいただくようにしています。また、入居者様やご家族からのご要望があれば、できる範囲ご要望に沿えるようにしています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を、年に4回実施し、ご意見やご要望を聞く機会を設けています。内1回は、運営推進会議と同時開催し外部者へ表せる機会を設けています。面会時にも、ご意見、ご要望を聞くように努めています。ご意見、ご要望がでた時には、できる限り応えられように努めています。	年4回の行事を兼ねた家族会では、状況報告を行い、親睦を深め、その中で要望を聴いている。毎月の支払日や面会時に家族とコミュニケーションを図り、家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、ホームの運営や介護計画に反映している。また、利用者の要望は日常的に聴き取り、記録して、職員全員で共有している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、会議を実施した時に、その場で職員の意見や要望を聞くようにしています。何かある時にはその都度、職員と意見交換できる場を設け意見や要望を聞くように努めています。	毎月、職員会議を開催し、管理者は、職員が意見を出しやすい雰囲気作りを心掛け、意見や要望、アイデア等が活発に出されている。また、毎日の申し送り時に、職員の意見や気付きを伝え合い、解決できる事から迅速に取組み、職員の意見が、ホーム運営や業務改善に反映できるように取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から、勤務状況を把握し、希望に応じた勤務になるように配慮しています。また、職員に応じた給与や各種手当あり。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたり、性別、年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしています。資格取得したい職員には、勤務調整を行い資格取得ができるようにしています。社会参加や自己実現ができるように希望休み等を聞き職員の要望に沿えるように努めています。	職員の募集は、年齢、性別、資格等の制限はない。職員の休憩室を整備し、休憩時間や勤務体制、希望休等に柔軟に対応し、職員一人ひとりが生き生きと働ける職場環境を目指している。今年度は、法人全体で職員のスキルアップに力を入れていこうという事で、年間計画を立てて取り組んでいく予定であり、職員が向上心を持って働ける環境作りに努めている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1度、勉強会を行い職員の理解を深めるように努めています。入居者様にとって職員が身近な支援者になるので、入居者様の人権を考えるように努めています。	年に1回、人権についての勉強会を行い、利用者の人権を尊重する事について、改めて確認を行っている。また、常日頃から、人生の先輩である利用者を敬い、尊厳を守る介護サービスを行っていく事を話し、意識づけをしている。今年から、行政の勉強会に参加する予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	グループホーム協議会に登録し、年間計画されて いる研修へ参加できるようにしています。他の研修 案内が届くと回覧で回し、参加を呼び掛けていま す。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	研修や勉強会がある時には参加を呼びかけ、他の 同業者の話が聞けるように取り組んでいます。ま た、行事の案内を出し、他事業所や行政の方との 交流する機会を作るようにしています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人 の安心を確保するための関係づくりに努めている	使い慣れた物や馴染み物を持って来ていただき、 今までの生活環境に近い環境が維持でき、安心で きる環境作りに努めています。不安な事や要望が ないか聞き取りを行い、不安の軽減に努め、安心し て生活ができるように努めています。ご家族の協力 が必要な時は、協力依頼を行っています。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関 係づくりに努めている	事前に聞き取りを行い、入居時に不安等がない状 況で入居できるように努めています。入居後も、面 会時、家族会等で、話す機会を設け、ご家族の不 安の軽減に努めています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	介護計画作成時、ご本人、ご家族から以前の暮ら しの情報を聞き取り、必要な支援を作成するよう にしています。ご要望等があれば、取り入れ支援を 行っていくようにしています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯物干しや洗濯物たたみ、食 事の調理や盛り付け等、入居者様と一緒にできる 事は行うようにしています。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人 を支えていく関係を築いている	ご家族の支援が入居者様にとって大切だと考えてい ただくように、ご家族ができる支援はしていただくよう にお願いしたり、行事等の参加の呼びかけ、入居者様と 接していただく時間をとっていただくようにしています。 年4回の家族会の開催や面会時に状況報告を行い、 最近の状態を知っていただくようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされてきた場所や人間関係の情報収集を、ご本人だけではなく、ご家族からも聞き取りを行い、関係が途切れないように努めています。	契約時に、利用者の人間関係や大切にしてきた事等を聞き取り、職員全員で情報を共有し、入居することで、利用者が今まで築いてきた人間関係や地域社会との関わりが途切れないように努めている。また、利用者の希望を聴いて家族と相談し、実現に向けて協力して取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様の間に入り一緒に会話をし、入居者様の関わり合いがスムーズにでき、関係が深められるように努めています。居間やダイニング、食事の席は、気が合う入居者様同士と一緒に座っていただき関係が深められる様に努めています。		
24		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族から相談や支援が必要な時には、必要に応じて相談を受け、支援を行うようにしています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話の中で、今の暮らし方や何を望んでおられるかを聞きとるようにし、希望や意向の把握に努めています。必要時には、ご家族や職員での話し合いの場を設け、希望や意向の把握ができるように努めています。	職員は日常生活の中で、「何かしたい事はないですか?」と利用者に言葉をかけているが、なかなか思い出せないため、利用者が喜びそうな事を考えて、本人本位の支援を心掛けている。また、意志の疎通が困難な利用者に対しては、家族に相談し、利用者の表情や仕草から、思いを汲みとる努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りだけではなく、ご家族等からの聞き取りを行い、情報収集を行うようにしています。他の医療機関や施設を利用されていた方は、そこでの状態や情報提供をしていただくようにしています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者様の日常生活を観察し、現状の把握に努めています。状態変化があった時には、連絡張に記入したり、ミーティングで報告し、現状の把握を行うようにしています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族と職員での話し合いの場を設け、意見やアイデアを出してもらい、現状に即した介護計画を作成するようにしています。必要時には、主治医に意見を聞くようにしています。また、担当の入居者様を職員で決め、担当の入居者の状況報告を記入し介護計画に活かすようにしています。	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、必要時には主治医の意見を聞いて、職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。月に1回、担当職員がモニタリングをして評価を行い、介護計画の実施状況を随時話し合い、計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子やケア実践、結果は、個別記録に残し毎月評価を行っています。必要時には、介護計画の見直しを行っています。また、変更時には、職員連絡ノートに記入し職員間での情報共有を行っています。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご意見、ご要望、ニーズがでた時には、話し合いの場を設け、意見交換を行うようにし、その時に合ったサービスが行えるように取り組んでいます。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かしての心身の力を発揮する場合は、ほとんどないと思います。地域の行事には、参加する事はあるが心身の力を発揮できるような所までは至っていません。地域のお店での買い物は、行っています。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望される医療機関がある時には、その医療機関と情報交換を行い、受診できるようにしています。ご家族での受診が困難な場合は、職員で対応し、受診結果を報告するようにしています。また、往診を希望される方には、協力医へ相談し往診対応ができるようにしています。	利用者や家族の希望を優先してかかりつけ医を決定している。家族対応が困難な場合は、職員が同行して受診し、主治医との関係を築くと共に、受診結果は必ず家族に報告している。現在は、全員がホームの協力医療機関の定期的な往診を受けていて、1階の看護師や訪問看護と協力し、利用者が安心して医療を受けられるよう支援体制を整えている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、状態変化がみられた時には、早急にかかりつけ医へ報告相談を行い、早急な対応に努めています。ターミナルケア、看取りの入居者様には、訪問看護を行ってもらい、その都度、状況報告を行い、適切な処置が受けられようとしています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、基本情報を作成し、病院関係者との情報交換を行い、情報提供を行っています。また、面会を行い、病院関係者からの情報提供をしていただき状況把握をし、早期退院ができるように準備を行うようにしています。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、ご家族と主治医とを交えて今後の指針を話し合うようにしています。また看取りの承諾書を作成し、看取りについての説明を行い、ご家族の理解を得るようにしています。現在、2名終末期ケアを行っています。	「終末ケア説明書」を基に、利用者、家族と話し合う機会を持ち、ホームで出来る重度化、終末期ケアについて承諾を得ている。今年4月に看取りを経験し、現在も1名終末期ケアを実施している。「ここで最期まで」という、利用者、家族の希望に応えられるよう、介護技術や質の向上に向けて、職員が心を一つに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを用意し、入居者様の状態に合った対応を職員に伝えるようにしています。年1回、勉強会を行うようにしています。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、春と秋、防災訓練を行っています。春の防災訓練では、地域の方、消防署に協力を依頼し実施しています。その時に、消防署の方から初期対応の訓練をしていただくようにしています。	年2回防災訓練を行い、うち1回は消防署の参加を得て、初期消火の対応や寝たきりの方を運び出すコツ等の指導を受けている。1階と3階の併設事業所と合同で行い、その都度協力体制を確認している。また、夜間を想定して実施し、災害時に備えた飲料水や非常食の準備も行っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の支援や声かけを行う時には、職員へ入居者様の人格や誇り、プライバシーを損なわないような言葉かけを行うように伝えています。入居者様一人一人にあった言葉かけを行うよう努めています。	職員は利用者一人ひとりのこれまでの生活環境や習慣を把握し、利用者を尊重した介護の実践に取り組んでいる。一人掛けのソファで一人だけの空間を作ったり、食事の時に、窓際に一人席を設けたりして配慮している。また、個人情報の取り扱いに注意し、職員の守秘義務についても注意を呼び掛けている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援を行う際、職員が決定権を持つのではなく、入居者様に決定権を持ていただくような声かけを行うようにしています。入居者様が、思いや希望を言いやすい雰囲気を作るように努めています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様からの希望があった時には、業務を中断し、入居者様の支援を優先し、日常生活が、ご自分のペースで送れるように努めています。日課になっている事は、声かけを行い日課を行っていただくようにしています。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、洗面、着替えを行っていただくように声かけや誘導を行い、身だしなみを整えただけのようにしています。外出時には、ご自分でお好みの洋服を選んでもらいようにし、お好みの服装で外出できるようにしています。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の席を、気の合う入居者様同士で座っていただき楽しく食事をしていただけるようにしています。職員も入居者様と会話をしながら一緒に席で食べるようにしています。外食や食べたい物の希望がある時には希望に沿えるようにしています。週に1度、就労支援センターからパンの販売に来ていただき、ご自分でパンを選んでいただいています。	食事は、法人厨房で作られた料理を配膳し、利用者がそれぞれ決まった自分の席に座り、職員が間に入って会話しながら食事している。利用者の嗜好を聴いて献立に活かし、パンの訪問販売を取り入れ、食事を楽しめるよう配慮している。また、餅つきを行いぜんざいやきな粉餅にして食べたり、サンマ祭りでは炭火焼のサンマを食べる等、季節感を大切に食事の支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態を把握し、食事量や水分量、食事形態をその方に合った食事で提供するようにしています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、誘導を行うようにしています。介助が必要に方には、職員が介助を行い口腔内の清潔保持が保たれるようにしています。希望者には、週に1度、歯科往診に来ていただき口腔ケアを行ってもらっています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄状況や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように努め、出来る限り失禁がないように取り組んでいます。トイレでの動作に戸惑いのある方もおられるので、必要時には、声かけを行い自立できるように努めています。	職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けやトイレ誘導を行い、失敗のない排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、利用者の自信回復と、オムツ使用の軽減に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の排便習慣を把握し、その方に合った予防と対策を行うようにしています。状態に応じて、その都度、下剤を調整し、必要な時は、主治医へ相談するようにしています。また、ヨーグルトやヤクルトを摂取し、便通が良くなった方もおられるので摂取していただいている方もおられます。運動も行うようにしています。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様が入りたい時に入れるように、準備を行っています。入浴期間が空いている方には、声かけを行い、清潔保持ができるように努めています。なかには、拒否がある方におられるので、その方に合った声かけや職員が対応し、無理なく入浴ができるように取り組んでいます。	利用者の希望を優先し、平均週2～3回は入浴の支援に取り組んでいる。利用者の体調や状況により、曜日を変更したり、清拭や足浴に変更する等して、柔軟に対応している。また、天候が良い時期には窓を少し開けて、外の景色を眺めたりして、気持ちよく入浴してもらえよう配慮している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣やその日、状態に合った休息ができるように、入居者様の把握に努めています。ソファや椅子で休まれている方には、クッションやひざ掛けを用意し、休んでいただけるように努めています。入眠の支援では、季節や個人によって、室温や衣類、寝具の調整を行い、快適に睡眠がとれるように取り組んでいます。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の状態報告を主治医へ行い、内服処方をしていただくようにしています。内服変更時、必要な時には、バイタルチェック等の記録を行い、状態変化に気をつけ次回、往診時に報告を行っています。飲み忘れがないように、必要な方には、声かけや介助を行うようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や嗜好を把握し、入居者様に合った、役割や楽しみを日常生活の中に取り入れるようにしています。飲酒を好まれる方には、主治医へ相談し許可をもらい、飲酒の日を設けたり、月に1度、行事計画をし、気分転換を図れように努めています。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の状態や季節に沿って外出を行うようにしています。入居者様から出たご要望には、出来る限りご要望の場所に行けるように努めています。要望がない時には、職員で話し合い、季節にあった場所や楽しんでいただける場所を考え外出するようにしています。また、家族会や面会時に、ご家族からも外出のご要望やご意見を聞くようにしています。	天気の良い日を利用して、散歩や買い物に出掛けたり、季節毎の花見や外食、ドライブ等を楽しみ、利用者の気分転換に取り組んでいる。また、利用者の行きたい所を聴いて、家族と相談しながら個別対応で外出する等、利用者の生きがいに繋がる支援を行っている。ホームの目の前にJAのお店ができて、利用者と職員が日常的に買い物に出かけている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご本人で金銭管理されている入居者様おりません。入居者様が必要時に使えるように、ご家族から、預り金として預かるようにしています。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が希望された時に、電話がかけられるようにダイニングに電話機を設置しています。手紙のやり取りを希望される方には、ハガキを用意したり郵送のお手伝いをするようにしています。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、入居者様からご要望があればご要望に沿えるように努めています。また、入居者様の状態を見て、職員と話し合い入居者様が居心地よく過ごせる空間を作るように取り組んでいます。季節感を感じてもらえるよう、クリスマスツリーや雛人形等を置くようにしています。また、観葉植物を置いて落ち着いた空間になるように心掛けています。	病院を改築したビルの2階にあるため、無機質になりがちな環境を、季節毎の飾り物や写真を掲示し、ソファを利用者好みに配置する等工夫して、利用者が過ごしやすくなるような空間作りを行い、家族も来て安心出来る雰囲気作りに取り組んでいる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士が過ごせるように、居間に2～3掛けのソファを設置しています。廊下には、1人掛けソファを設置し1人で過ごせる空間作りをしています。また、窓際には一人を好まれ方がおられるので専用の椅子を配置しています。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者様の馴染みの物を置いたり、ご家族が持って来られた物を置いたり、入居者様とご家族と話しをして、居心地良く落ち着いて過ごしていただける環境作りに努めています。	利用者がお気に入りの筆筒や椅子、机、鏡、仏壇等を持ち込んでもらい、家庭的な環境の中で、安心して過ごす事が出来るよう工夫している。また、夜間によく起き上がる利用者が座れるようソファを設置する等、利用者一人ひとりに合わせた居室作りに取り組んでいる。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の支援の中で、入居者様のできることやわかることを把握し、安全で自立した生活が送れるように努めています。		